



放射能社会復興コース
森山 信彰
医歯薬保健学研究科
理学療法士

2 011年3月11日に発生した東日本大震災の後、福島第一原発に近い福島県南相馬市で病院内の理学療法業務に携わりました。

現地では多くの方が放射線災害の影響により住み慣れた土地を離れる、あるいは仮設住宅など不慣れた環境で生活することを余儀なくされました。もともと疾患を有する方では再発を起しやすく、市民の健康も大きな問題であると考えます。

私は理学療法士として、体力の低下や、健康の変調をきたした被災者に対して取り組めることはないか、このようなアプローチで放射線災害復興に貢献できないかと思い、フェニックスリーダー育成プログラムに入学することを決めました。放射線災害復興学は、自分の専門分野に限らず幅広い視点が必要とされる学問であり、このプログラムで学ぶ責任感を持つて日々勉学に励んでいきたいと思えます。

【今後の活動予定】

6月4日～14日

オークリッジ科学研究所放射線緊急時支援センタートレーニングコースの受講

6月10日～6月14日

放射線被曝者医療国際協力推進協議会(HICARE)・IAEAとのジョイントシンポジウムへの参加

6月10日

第2回語学研修報告会の開催

7月5日～6日

フェニックスリーダー育成プログラム 第1回リトリートの開催

7月5日～6日

平成25年10月入学者募集について(第二次募集)

出願書類提出期間：平成25年6月17日(月)～平成25年6月24日(月)午後5時まで

第一次選抜(書類審査)：平成25年6月28日(金)までに結果通知

第二次選抜(口述試験等)：平成25年7月6日(土)、7月7日(日)

※詳細についてはホームページ、もしくは左のQRコードからご確認ください。また、お気軽にお問い合わせください。



7月15日～7月17日

The Asia-Pacific Science, Technology and Society Network (APSTSN)の所属学生の参加発表

7月27日

中国電力島根原子力発電所見学

8月6日～16日

オークリッジ科学研究所放射線緊急時支援センタートレーニングコースの受講

8月19日～23日

短期フィールドワークの実施

【編集後記】

採択以降、バタバタと、しかしながら着実に準備を進め、昨年10月に一期生を迎え入れ、歩みを進めています。今後、リトリートや短期フィールドワーク、米国オークリッジREACTS研修等盛りだくさんのカリキュラム。学生にもスタッフにとっても、アツい季節になりそうです！



本二コースライター発刊準備に着手した新緑の季節、広大には多くの花々や萌える木々の中に、我慢強い桜を発見。
Phoenix Letter
編集担当
森山、高田
大庭、林田

お問い合わせ

広島大学 教育・国際室
コラボレーションオフィス

〒739-8524 東広島市鏡山1-1-1 教育学研究科K棟402号
TEL:082-424-6152

E-mail : leading-program@office.hiroshima-u.ac.jp
Web : <http://www.hiroshima-u.ac.jp/lp/program/ra/>



広島大学

Phoenix Letter
Vol.01
June 2013

博士課程教育リーダーシッププログラム
放射線災害復興を推進するフェニックスリーダー育成プログラム

Contents

President's voiceP.1
Program coordinator's voiceP.1
Current Activity ReportP.2/3
Student's voiceP.4



広島大学長
浅原 利正

放射線の産業、医療、エネルギー分野での利用は、私達の生活に多大な恩恵をもたらすと同時に、それに伴う災害の危険性も増えています。また最近ではあつてはならない核テロも懸念されています。東京電力福島第一原発事故は多くの教訓を我々に与え、世界に広く展開し、さらに計画されようとしている原子力発電所の事故への備えや予防は重要な人類の課題といえます。さらには、医療の高度化は放射線診断の質を向上させ、放射線治療の優れた成績につながる一方、これらに伴う低線量被ばくの問題も克服するべき課題となつてきつてきます。それにも関わらず、この問題を総合的に、かつ科学的に扱える人材育成は世界的にも立ち遅れていたことが原発事故により露呈しました。

広島大学は原爆放射線医学研究所と大病院を中心に、1945年の原爆による放射線障害を広角的な視野で捉えて調査・研究するとともに、被ばくされた方々の治療を行ってきました。この広島大学の経験をもとに、放射線災害復興学の確立とその専

門家育成をブランディングしていただくに東京電力福島第一原発の事故が起きました。この人類共通の課題解決に取り組むことは広島大学の使命であり、そのような専門家を育成していかなくてはならない、というのがこのプログラムの原点です。

本プログラムは、平成23年度文部科学省博士課程教育リーダーシッププログラムに採択されたことにより一気に加速し、広島大学の全研究科長を含む「広島大学大学院リーダーシッププログラム機構」、そして「放射線災害復興学」を確立するための運営に必要となる各種委員会等を設置し、総合大学である広島大学において初めてとなる全研究科が連携した分野横断的教育体制を確立しました。

2012年10月に迎え入れた8名の二期生は二年次後期に突入し、非常に幅広い知識を積み重ねており、さらなる年次には、多くの実習やインターシップ、フィールドワークに臨みます。本プログラムは非常に「タフ」なプログラムではありますが、確かな分野横断的知識基盤を持ち、俯瞰的視野で放射線災害復興をマネージメントできる、これまでにない優れたグローバル人材として人類社会の未来に資する「フェニックスリーダー」を目指して日々邁進し、世界に羽ばたくことを信じています。

広島大学大学院に設置された「放射線災害復興を推進するフェニックスリーダー育成プログラム」は、平成23年度文部科学省「博士課程教育リーダーシッププログラム」に採択された大型教育プログラムです。放射線災害復興学は世界的にも喫緊の課題とされる学問領域であり、広島大学は世界的にその先鞭をつけます。



プログラムコーディネーター
神谷 研二
広島大学 副学長
(復興支援・被ばく医療担当)
(福島県立医科大学 副学長)

本プログラムは、3つのコースで組み上がっています。放射線災害の医療や放射線リスクを統括できる人の養成(放射線災害医療コース)、環境放射線の科学を理解し統括できる人の養成(放射線環境保全コース)、社会全体を復興させるために、社会科学をベースにした知識や教育、特に子供の健全な育成を統括できる人の養成(放射線社会復興コース)の3つです。本プログラムに入学した学生は放射線災害復興のグローバルリーダーを目指し、先述の3つのコースから学生個人ごとの専門分野に応じて2つのコースを選択し専門性を深化させると共に、他のコースの授業も習学します。これは、放射線災害復興には非常に幅広い学術分野の知識が必要となるためです。それはかりでなく、統合化する、また、全体を俯瞰する能力を持たないと放射線災害からの復興をマネージできないのです。

そのために、本プログラムではインターシップやフィールドワークなど、非常に現場を重視したカリキュラムを設定しています。できるだけフィールドに出る、そこでの経験を通して実際の知識や能力を身に付けようという、いわば実践力を養う教育に主眼をおいています。これは、私たちの経験に基づいています。広島大学は西日本ブロック唯一の三次被ばく医療機関として、福島第一原発事故発生以降これまでに延べ1300人以上を派遣し、被ばく評価、環境放射線量測定、健康相談、講演活動等を実施してきました。学術研究のみならず、実際にフィールドに出て、このような現場に行つてはじめて真の問題を認識する、そこにあるのはまさしく、人の問題です。こんなに人が不安に思っている、こんなに苦しんでいる、生活が破壊されている、そうした、ナマの声、ナマの現場を経験することで、はじめて問題の所在がわかり、使命感がより強くなり、取り組むべき課題が具体的に見えてきます。

プログラムには、熱意のある、志の高い優秀な人は是非来てもらいたいですね。そして将来はグローバルに活躍して欲しい。IAEAやWHOとつながる国際機関でキャリアパスを積んで、国際舞台で放射線災害復興の要になつて欲しい。そして単に学術的にではなく、実際に現地の人の役に立つて欲しい。それでこそ科学であり学問です。そういう人材を養成していきます。

Current Activity Report

2013年1月~5月

1月22~28日

平成25年10月入学 フェニックスリーダー育成プログラム入学試験二次審査(面接審査)

2月5日

平成25年10月入学 フェニックスリーダー育成プログラム入学試験一次審査(書類審査)

2月10日

フェニックスリーダー育成プログラム 外部評価委員会を開催

2月10、11日

フェニックスリーダー育成プログラム 第2回国際シンポジウムを開催

2月16、17日

平成25年10月入学 フェニックスリーダー育成プログラム入学試験二次審査(面接審査)

2月25、26日

オークリッジ科学研究所放射線緊急時支援センターの視察

2月28、3月1日

インドネシア 原子力・エネルギー庁等の視察

2月25日~4月5日

所属学生のフロリダ州立大学 語学研修

3月15、16日

博士課程教育リーディングプログラムフォーラム2012への参加

4月

平成24年度入学 第一期生の1年次後期開始

4月9日

キャンパス内にプログラム院生室を設置

5月

平成25年10月入学 二次募集説明会開催
17日 広島大学 福岡オフィス
24日 広島大学 大阪オフィス
29日 福島ビューホテル
31日 広島大学 東京オフィス

2月10日 フェニックスリーダー育成プログラム外部評価委員会を開催

外部評価委員として、柴田徳思氏((株)千代田テクノ大洗研究所研究主幹)、長瀧重信氏(公益財団法人放射線影響協会理事長)、宮川清氏(東京大学大学院医学系研究科教授)、山下隆氏(中国経済連合会会長)、Dr. Albert Lee Wiley(オークリッジ放射線緊急時支援センター/訓練施設(REAC/TS)医療・技術理事)、Dr. Jacques Lochard(国際放射線防護委員会(ICRP)第4委員会委員長)、Dr. Rethy K. Chhem(国際原子力機関(IAEA)健康部長)、Dr. Soveacha Ros(国際原子力機関(IAEA)コンサルタント)、Dr. Tom K. Hei(コロンビア大学教授・放射線腫瘍医療センター副所長)ら9名の教育、研究、産業界の有識者を迎えました。

岡本哲治プログラム責任者による開会の挨拶、神谷研二プログラムコーディネーターのプログラム概要説明に続いて、9項目の評価基

準に関する自己評価報告書と資料集に基づいて、各委員からの質問や評価に対して活発な意見交換が行われ、本プログラムは世界に類を見ない新しい人材育成プログラムであるとの評価を受けました。

特にカリキュラムマップを短期間に作成したことに対して非常に高い評価を受けました。本評価に基づき、今後本プログラムの更なる改善・改良を行うこととなりました。



リーガロイヤルホテル広島にて

2月10、11日 フェニックスリーダー育成プログラム 第2回国際シンポジウムを開催



浅原学長挨拶



ポスターセッションの様子

国内外から研究者、教育関係者、学生など約120名が参加しました。開会式での、池田貴城文部科学省高等教育局大学振興課長のご挨拶、浅原利正学長、岡本哲治プログラム責任者の挨拶の後、下條信輔教授(カリフォルニア工科大学)およびRethy K. Chhem健康部長(IAEA)による基調講演に続き、シンポジストとして、Jacques Lochard博士(ICRP 第4委員会委員長)、柴田徳思博士((株)千代田テクノ大洗研究所)、野原精一博士(国立環境研究所生態機能評価研究室)、Albert Lee Wiley博士(REAC/TS医療・技術理事)、

Tom K. Hei教授(コロンビア大学)による医学・医療面、環境面、社会科学面に関する分野横断的な講演と活発なディスカッションが行われ、今後私たちが成すべき課題が明らかにされました。

2月11日には、プログラム所属学生を含むポスターセッション(40題)での活発な議論の後に、下條信輔教授(カリフォルニア工科大学)、Rethy K. Chhem健康部長(IAEA)、神谷研二プログラムコーディネーター、そしてプログラム所属学生3名による「科学・技術は安心・安全の社会構築にどのような貢献ができるか?」について活発なパネルディスカッションが行われ、グローバルリーダーを目指す学生たちの高い意欲と志が改めて示されました。

最後に、神谷研二プログラムコーディネーターが「プログラム所属学生が復興に向けたグローバルリーダーとして活躍することを信じている」と締めくくられ、大盛況の内に幕を閉じました。



広島国際会議場にて

4月9日 東広島キャンパス・霞キャンパス内にプログラム院生室を設置

放射線災害復興を推進するフェニックスリーダーとして世界に羽ばたくための「巢」として、広島大学東広島キャンパス、そして霞キャンパスのそれぞれのキャンパスに占有の院生室を設置しました。自学自習を行うためのスペースとして活用することももちろん、グループでの討論や担当教員を交えての意見交換やディスカッションの場としても大いに活用することが出来る占有のスペースです。



東広島キャンパス院生室



霞キャンパス院生室

2月25、26日 オークリッジ科学研究所放射線緊急時支援センターの視察

アメリカ合衆国テネシー州に位置するオークリッジ科学研究所放射線緊急時支援センターは、放射線災害発生時に対処するための、基礎的、そして応用的なトレーニングコースを実際に対処している現場を用いて習学出来る世界的にも非常にユニークな施設です。



トレーニングセンターの概観

本プログラム所属学生が放射線災害復興のグローバルリーダーとして活躍するためには、自身の専門分野の如何に関わらず、緊急時対応能力を身につけることは非常に重要であるために、センターの視察を



トレーニングコースのひとつコマ

行い事務レベルでの打ち合わせを行いました。

センター長である、Dr. Wiley博士は、本プログラムに大きな関心と期待を示され、トレーニングコースへの参加やインターンシップに協力いただけることとなりました。

2013年6月、そして8月に学生を派遣してトレーニングコースを習学することが予定されており、次号にてその詳細な報告を掲載予定です。

2月28、3月1日 インドネシア 原子力・エネルギー庁等の視察

インドネシア原子力・エネルギー庁(National Atomic Energy Agency: Center for Technology of Radiation safety and Metrology(BATAN))などを訪問しました。



BATANはインドネシアのアイソトープなどの原子力関係の調査、研究、開発、適用、及び関連施設のマネジメントと支援活動を実施している機関であり、シュシライド課長と挨拶を交わしたのち、Dr. Dadong(Head, Safety and health division)からBATANの説明を受けました。また、本学のフェニックスリーダー育成プログラム概

要を説明するとともに、入学試験の広報活動及び現地からの志願者の面接等についての連絡及び調整を行い、出願者への広報及びプログラムへの協力について了承いただき、学生の長期インターンシップの受入れについても、協力いただけることとなりました。

また、BOS財団、そしてNational Resources Conservation Technology Research Centerにおいても同様に優秀学生への広報等を協力いただけることとなりました。



2月25日~4月5日 フロリダ州立大学 語学研修

私たちは2013年2月25日~2013年4月5日の日程でアメリカ合衆国フロリダ州タラハシーへ英語力の向上と他文化への理解を深める目的で短期語学研修へ行ってきました。



プログラム所属学生



クラスのみなど...

タラハシーはフロリダの州都ですが、とても小さな市です。オーランドやマイアミは世界中に知られているものの、タラハシーの名はあまり知られていないようです。実際、私たちも行ってみるまで知りませんでした。私たちはフロリダ州立大学内のCIESと呼ばれる短期集中英語トレーニングセンターにて短期の英語トレーニングを受けました。そこでは5~10人程度の小グループでクラスを構成し、基本的なレベルから個人に合わせて英語を教えているため、効果的に英語を学習することが可能でした。プログラム参加者も世界中数十カ国からやってきた留学生であり、異文化を知る上で大変良い場でした。文化的な違いにしばしば困惑することもありましたが、日本では気づけなかった違いを肌で感じる事ができ、大変良い研修を行うことができました。